

道民カレッジ主催講座
令和5年第2回インターネット講座

日本最古の国宝
～北海道白滝遺跡群出土品～

資 料



公益財団法人
北海道埋蔵文化財センター
理事長（所長）長沼 孝 氏



遠軽町教育委員会教育会教育部
白滝教育センター
係長 瀬下 直人 氏

白滝遺跡群発掘の経緯

○長沼氏

白滝はですね あの黒曜石の原産地ということで昔から有名で遺跡がたくさんある、全国の大学が調査をしたりしてですね 全国いろんなところに持って行った黒曜石の石器といえば白滝というぐらい、日本、世界の研究者にとって有名な所だったんですね。そういうところで遺跡がいっぱいあるというのはわかっていました。

開発局がつくる高速道路ができる計画がありまして、その路線がちょうど今回 湧別川 という川のすぐ上のところを通るという計画が持ち上がりました。

遺跡がいっぱいあるところを調査してしまうと、調査だけで10年も20年もかかってしまう。これは大変だ、ということで 北海道の教育委員会と開発局が協議を行って 遺跡が一番密集して大規模な遺跡があるところを 路線を2キロくらい山側に 遺跡のないところに振りました。しかし変更しても調査しなければならぬ部分があるということで、その調査も やはり 大規模、結果的には 今回の調査ですね、12ヘクタールぐらい発掘調査を行いました。でも 黒曜石の原産地の山ですので 旧石器時代の人たちは山から良い石を降ろしてきて そこで石器を作る。そこで石器をつくっていますから、石器を作った時の欠片がいっぱいあるんですね。それを我々は調査を綿密にしたわけですね。

遺跡にはいろんな遺跡があって 物をいろんなところから持っててそこで生活をした長期間の生活したところ、それから 場合によっては 季節的に移動した キャンプだった場所 いろいろあります。その中で白滝では 黒曜石の原石があるといいましたので そこから石を拾ってきて そこで石器を作る。原石があって石器をつくる、専門的には原産地遺跡というのですが、そこで石器を作りますから ほとんど石を拾ってきて作って 要らなくなった欠片を全部置いていく 上手くできたものだけ持っていく。

我々はその捨てた欠片がいっぱいあるところを調査するわけですね。ただ我々の調査は単なるこういう形なるものがでてきたよ、こんなものがありました、だけでは意味がないので 彼らが残していった欠片を我々はジグソーパズルのように 三次元のジグソーパズルをくっつけていくんです。

そうすると彼らがどんな原石を山から降ろしてきて そこで石器を作ったのか、ここで失敗して 捨ててったのか、うまくできたから他へ持って行ったのか、その欠片を接合することによってわかる。そこに 一万年以上前の旧石器時代の人たちがどんなことをやったのか、どうゆうふうな技術で石器を作ったのか見えてくるわけです。それが白滝では 10ヘクタール以上 出土品669万点、石の重量13トンぐらいでてきた。これは日本でも北海道でも世界でもない規模の調査です。ただ量が多いだけではなくて 我々は先ほど言いましたが 接合作業などいろんな細かい作業を積み重ねました。そのことによって 北海道の旧石器の場合、日本の旧石器の状況がわかるようなものが 結果的に全部公表することができた、ということで 学術的に重要だということがわかり、重要文化財になって、今回さらにその上の国宝ということになったわけですね。

国宝指定について

○長沼氏

文部科大臣がいろんな 有形文化財の中から 学術的に重要なものを 重要文化財にまず指定します。さらにその重要文化財の中から 世界的見地 さらに 類まれなものを 国宝に指定するというふうに規定されています。旧石器時代のものとしての国宝としては第一号で国宝になりました。日本を代表する旧石器時代の遺物である

ということで国宝になったわけです。ですので 国宝としては北海道では土偶に次いで二番目というような報道に書かれていますが、そうではなくて 日本で初めての旧石器時代の国宝 というのがですね 非常に大きな意味があるもんです。

毎年の 国宝とか重要文化財の国の専門調査会で指定が 答申が出た時にその後に東京の国立博物館でお披露目展 “こういうものが重要文化財国宝になりました” というのを比較展が行われます。令和3年から3年4年5年、3年分の指定品が展示されるとそのための 図録 が作られたんですが その表紙にこの白滝が選ばれています。

○瀬下氏

指定の件数は 1965 点になります。 国宝は「してください」といってできるものではなくて やはり そのまず 史料の持つ価値が評価されなければなることはないはずです。その前段として平成 23 年に重要文化財の指定を受けているんですけども そこから約 10 年経って 評価自体は揺るぎないものだし 旧石器時代を代表する日本の旧石器を代表する史料だという認識でこの指定に至ったというのが正直なところですよ。

○長沼氏

先ほど言いました 重要文化財 国宝 は 文化財保護法で規定されてはいるんですが 重要文化財というのはですね 全国でおそらく 1 万 3000 件ぐらいあります で そのうち国宝は その 1 割よりも少ない 1100 点ぐらいです。 ただしその 1100 点のうち例えば建造物 建物 法隆寺であったり 姫路城とか皆さんご存知のものがあります。 それは建造物ですね。 あと遺跡から出た 出土品とかですね。そういうものは 49 件 今回白滝入れて 49 件しかないんですね。そのうち 今の博物館なんかで展示しています、縄文時代のものは 土偶が 5 件と火焰土器 1 件、合計 6 件しかないですね。

それ以上のものは 例えば 弥生時代の銅鐸 であったりですね。古墳から出たようなものが、国宝としてあります。日本の歴史は旧石器時代から始まると約 4 万年ぐらい前から人が住み始めたと言われてますが、その旧石器時代のものが今まで全くなかったんですね。白滝はその今回、第 1 号ということになりました。

旧石器時代とは

○瀬下氏

旧石器時代というのは、日本でいうと縄文時代以前の時代になります。

人類の誕生からなので 700 万年前からだいたい 1 万年 15000 年ぐらい前の時代を指します。

北海道においては およそ 3 万年前から 1 万年前後の時代を指します。旧石器時代と縄文時代のまず大きな違いは 生活様式ですね。竪穴式住居 っていう、住居は皆さんご存知かと思いますが、旧石器時代の遺跡には そういった竪穴式住居の跡と思われるものは見つかっておりません。

縄文時代の生活が狩猟と採集を伴う生活っていうのは ご存知の方も多いと思いますが、旧石器時代においては、実は、気候の違いからあまり食べられる植物っていうのがないんですね。よって、食べ物の代表的なものとしては動物になります。動物自体は黙ってて人間の前に現れるものではないので、基本的には動物を追い求める 遊動生活ってよく言うんですけど そういう生活をしていたようです。

よって 旧石器時代の人はおそらく移動に適した住居のスタイルを持っていたんじゃないかと、今のところ考えられています。

いわゆる氷河期に属する時期でだいたいですけど、平均気温が年間の平均気温が 6、7 度低かったと言われ

ています。

黒曜石とは

○瀬下氏

黒曜石は分類上 火山岩に分類されるもので 溶岩が固まったものです。ただ 溶岩が固まれば黒曜石になるとは限らず、溶岩の種類によっても異なりますし、固まるスピードによっても異なります。流紋岩質の溶岩が急速に固まったものと言われております。

白滝ではおよそ 300 万年ほど前に大きな火山活動があったと言われてます。その後 220 万年前ほどに火山活動で黒曜石が作られたという風に言われてます。その火山活動のあった中心地である 赤石山周辺には、今でも多くの黒曜石を見ることができます。

黒曜石の大きな特徴は天然のガラスであるということになります。ガラスですから 割れやすく 割れ口が鋭い そういった性質を持ちますので石器の材料にはとても適している石材だと思います。

石器の種類は何種類かあって、なかなか 説明はしにくいのですが、旧石器時代の人は、使用用途によって石器の形を作り変えて使用していました。たとえば 先の尖った石器なんかは、木にくくりつけて槍の先として使っていたようですね。

細石刃っていう 石器があるんですけども それについては単品で使うというわけではなく、木ですとか動物の骨ですとか、そういうものに埋め込む 組み合わせ道具として使われていたようです。

黒曜石は先ほども申し上げたように、まず石器を作る材料として非常に優れた資源であるということを見るとその時代の人に非常に大事に使われた資源だと思われまます。

まちとしての取り組み

○瀬下氏

まずこの文化財をより理解するためにここの施設では石器作りの体験なんかを中心に活動を行っています。実際のところ、石器を見ても なかなかわかりづらい どうやってできるのか どういう 石器なのか やっぱり色々 こうわからないことが多いので それが 体験を伴うことによって 理解できる仕組みというのを当施設では実施してます。

夏から秋にかけて その黒曜石 原産地を巡るツアーを企画しておりまして そこでは昔の火山活動でどうい風にして 黒曜石ができたのかということから始まり 石器がどうやって作られるかということまでを半日ほどのツアーで理解するというプログラムを作っています。

まず、国宝に指定されたっていう指定されるということ自体、町にとっては大きな誇りになるのかな と思います。

もともと白滝遺跡群というのは旧白滝村という自治体にあるものなんですけども、合併して 国宝になりました。これ自体、町の皆さんになって言うんでしょね、 大事にしてもらいたい一つの大きな宝物になると思うので、白滝じゃなくても、遠軽町全体で盛り上げてもらえればと思います。

今回 国宝に指定されるんですが それはあくまでもたくさんある文化財のうちのほんの一部に実は過ぎないんですね。その他にも当施設には数多くの黒曜石の石器あるんですが やっぱりそれがあってこそこの今回 国宝になります。 結局 国宝だけが主役 というわけではなく 町としてはその他の貴重な文化財っていうのも大切に今後とも活動を続けていければなと思っております。